

情報提供

島根原子力発電所 3号機の人エライフ 併用防波護岸による藻場造成を活用した Jブルークレジットの認証

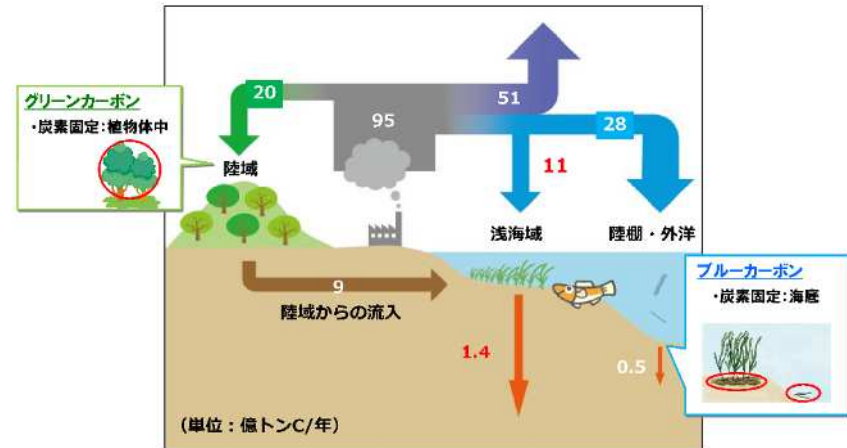
2023年 2月16日

中国電力株式会社

1. Jブルークレジットについて

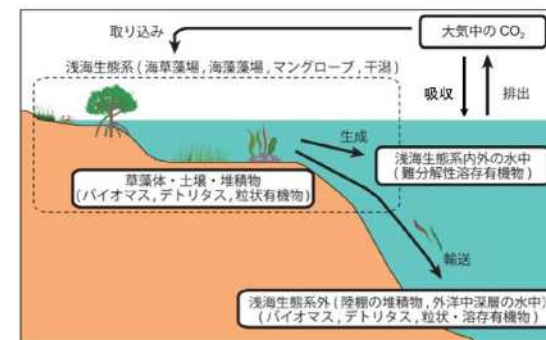
- 近年、海洋生態系によって吸収・貯留される炭素はブルーカーボンとして、カーボンニュートラル達成に向けた有力な取り組みとして、その活用に大きな期待が寄せられている。
- ブルーカーボンについては、現在、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（以下、JBE※）にて、定量化して取引可能なクレジットにする「Jブルークレジット」の制度設計・試行が進められており、令和2年度は1件、令和3年は4件、令和4年度は21件の取り組みが認証されている。

※JBEは、海洋の保全、再生、活用などブルーエコノミー事業の活性化を図るための技術開発・研究を推進することを目的として、国交省が設立許可した認可法人



出典：Kuwae and Crooks (2021)を参考に作成

図 1-2 グリーンカーボンとブルーカーボンの炭素循環図



出典：桑江ら (2019)「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」

図 1-3 ブルーカーボンの吸収・貯留メカニズム

出典：Jブルークレジット（試行）認証申請の手引き
（令和4年9月 JBE）

2. 島根原子力発電所3号機の人工リーフ併用防波護岸による藻場造成を活用したクレジット認証

➤ 概要

島根原子力発電所3号機の防波護岸は、冬場の波浪などによる影響を低減するため、人工リーフ（浅瀬）を併用した防波護岸を採用しています。水深が浅くなったことで海底面に太陽光が届きやすくなり、海藻草類の良好な繁殖・生育の場として期待しており、2007年から継続的に調査を実施して人工リーフ上の海藻類の生育状況を確認しています。

➤ 特徴

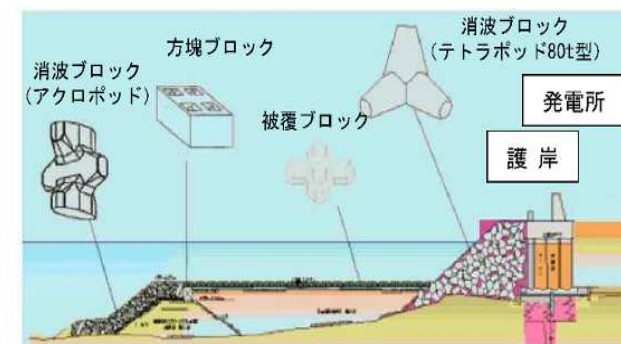
人工リーフの設置に伴い、新たに藻場が形成され、海藻類（クロメやノギリモクなど）の良好な生育の場となっており、形成された藻場によりCO₂が吸収され、気候変動緩和に寄与していると考えています。

➤ Jブルークレジットの認証

2022年11月18日、Jブルークレジット審査認証委員会において、5年間で15.7tのCO₂吸収量が山陰エリアで初めて認証されました。今後、取得したクレジットは、地域に還元できるような活用方法を検討してまいります。



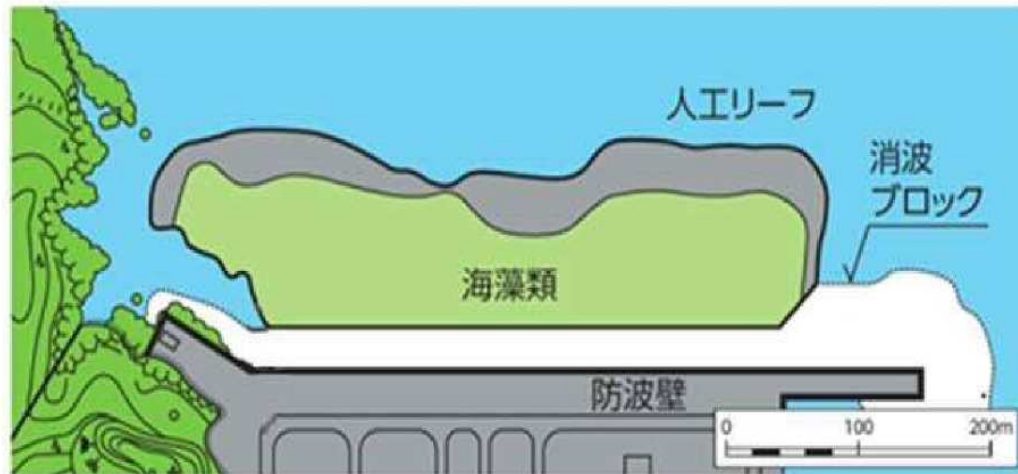
図：島根原子力発電所3号機 防波護岸



人工リーフ断面図

3. 人工リーフ上の藻場について

- 人工リーフ内の藻場は順調に発達しており、現在約 6 haの藻場を確認しています。



海藻類繁茂状況 (イメージ)



水深 6 m 付近



水深 8 m 付近



水深 8 m 付近

4. 地域の皆さまとともにカーボンニュートラルに挑戦

この度、認証いただいたJブルークレジットについては、松江市や山陰合同銀行と「カーボンニュートラル推進に関する連携協定」を締結していることもあり、この枠組みの中で地域へ還元できるような活用方法を検討します。

➤ 松江市および株式会社山陰合同銀行との「カーボンニュートラルに関する連携協定書」の締結について(2022年6月公表)

当社は、松江市におけるカーボンニュートラル推進に関して連携・協力するとともに、持続可能なまちづくりに寄与することを目的として、松江市および株式会社山陰合同銀行との3者間で「カーボンニュートラルに関する連携協定書」を締結しています。

《主な連携事項》

- (1) カーボンニュートラルの推進
- (2) カーボンニュートラルへ向けた普及啓発
・松江市ブルーカーボンの早期実現
- (3) その他、地域脱炭素・カーボンニュートラルの実現に資する取り組み

